京大3.8m望遠鏡の運用方針「私」案

野上大作（京都大学）

１．　前提条件

- 突発天体観測・系外惑星探査・恒星スーパーフレア研究が３本柱
- 観測時間は京大と共同利用で半々。ただし観望会・特別公開等の時間は除外して考える。
- 共同利用は国立天文台が責任を持ち、京大は協力する。
- 2018年4月から、NAOJハワイ観測所岡山分室に教員・技術職員で承継職員3名が常駐。京大附属天文台は岡山天文台関係で承継教員1名、特定教員／PD6名(うち3名公募中、来年4/1着任)、技術職員があたる。ただし勤務地は岡山or京都。京大宇宙物理教室も関係教員・PD・院生が協力。
- 2018年度後半から（部分的）共同利用開始。ただし初期観測装置はKOOLS-IFUのみ。
- 観測装置は全て短時間で切替可能(を目指す)。

観測装置

- KOOLS－IFU（可視面分光器）

  2018年　第1期共同観測装置(後述）
- 高速測光・分光器

  3.8m用に改造中。2018年度末完成予定
- 近赤外相対測光分光器

  開発中　最速で2019年完成予定
- 高コントラストカメラ

  開発中　まだしばらくかかる？
- 可視高分散分光器

  予算申請中
- 可視・近赤外3バンド同時カメラ

  予算申請中
- 他？

©太田さん

２．目指す最終的な運用形態

- ユーザーの希望がない限りは、基本的に共同利用も京大時間もキュー観測。毎日（or週単位くらい?）大まかな観測計画を立てて(京大＆OAO＆共同利用PI)、実際の観測はその晩の観測担当者の判断に従う。
- 京大時間も共同利用時間もToO観測最優先。
- 半期ごとに京大時間：共同利用＝１：１となるように最終的に調整。
- 大学間連携観測は京大時間とする？広い意味での「共同利用」と考える？１：１で割り振る？

３．「最終形態」運用での問題点等

- 観測を担当する全員が全ての観測装置に精通していないといけない？
- 観測を実際にやらないと観測者を育てる「教育」にならないのでは？
- ユーザーが観測している場合にToO観測が入ったらどうする？

４．　まず2018年度後期

- 8月から最初の共同利用を開始するとして、５月には公募を開始。
- 何日くらい共同利用に使えそうか？エンジニアリングタイム・各観測装置のテスト観測・その他、、、
- 現岡山プロ小の後継組織が通常通りレフェリーに審査を依頼し、プロポーザルの順位付けと割当日数を決定。
- 従来通りで日程の割当と公表も共同利用開始までに済ませ、岡山天文台まで来てもらって観測？その場合のToO観測は？